

データベース実習 I (明治大学) 講義概要

■担当者名

野口 喜洋 (山之口 洋)

■授業目的

データベースの概念は、約70年におよぶソフトウェア工学の発展から生まれ、現在では主要な一分野となっています。もしデータベースがなければ、現代社会を支える計算機システムはどれも正常に運用できません。したがって、データベースとは何かという基礎概念から始め、いくつかの主要なアイデアを理解することはぜひ必要ですし、自分の身の回りから始め、データベースを構築し、それを利用するソフトウェアシステムを作れるスキルを身につけることは、情報基礎論を終えた学生にとって、絶好の目標になると思います。社会に出ても有利です。

実習 I では、標準的な個人向けデータベース管理システムである Microsoft Access を使って、データベースの基本的な概念を学ぶほか、主としてテキスト (文字情報) に関するデータベースを作ってもらい、データベースによる情報の整理・保存・活用の方法を体感していただきます。

■授業内容

- | | |
|---------|----------------------------|
| 第1回 | 授業目的や運営方法、評価方法の説明 |
| 第2-3回 | 「データベース」と「データベース管理システム」 |
| 第4-6回 | 単一テーブルのデータベース作成 |
| 第7-8回 | 複数テーブルのデータベース、リレーションと参照整合性 |
| 第9-10回 | 選択クエリ、検索、集計 |
| 第11-13回 | 各自のテーマに基づくデータベースの構築 |
| 第14-15回 | 調整日 |

■履修の注意点

講義と実習を通じて、「データベースとは何か」を立体的に理解してもらいます。単なる練習問題ではなく、コンピュータとインターネット(C+I)の基本操作を習得していることを前提に、目標に至る道筋を各自で考える課題に取り組んでももらいます。

利用環境は、Windows パソコンです。

■教科書

この講義の講義資料や補助教材は、講師のブログ

『山之口.com』 <http://yamanoguchi.com/>

に「特別資料／講義資料」として掲載しています。

必要に応じて教科書・参考書を指定することがあるかもしれません。

■参考書

今のところ、特にありません。

■成績評価の方法

出席点 50 %、課題レポート(2回) 50 % 期末試験はしません。

■その他

実習データ保存用に USB メモリを用意してください(フロッピー・ディスクやMO、CD-R などのメディアは不可)。